

平成15年度

学校保健統計調査結果概要

福岡県企画振興部調査統計課

は し め に

学校保健統計調査は、学校における児童、生徒及び幼児の発育及び健康の状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的として、文部科学省が「学校保健統計調査規則（昭和27年文部省令第5号）」及び「学校保健統計調査要綱」に基づいて実施している指定統計第15号です。

この統計は、学校保健法に基づいて毎年4月1日から6月30日までの間に実施される健康診断の結果により、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち文部科学大臣があらかじめ指定する学校の児童、生徒及び幼児の、身長・体重・座高・健康状態（疾病・異常）を調査するものです。

このたび、文部科学省の集計結果に基づき福岡県分の調査結果概要を作成しましたので、有効に御活用いただければ幸いです。

なお、昨年度までは発育状態調査及び健康状態調査の双方の結果を掲載していましたが、本年度は文部科学省から健康状態調査の都道府県別数値が提供されなかったため、発育状態調査の結果のみ掲載しています。

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、学校保健法により毎学年定期的に行われている健康診断の結果に基づき、学校における児童、生徒及び幼児の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的としている。

2 調査事項

児童、生徒及び幼児の発育状態（身長・体重・座高）及び健康状態（疾病・異常）

3 調査の範囲

小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）

4 調査対象

(1) 小学校・中学校

調査実施校に指定された学校の児童・生徒の一部

(2) 高等学校

調査実施校に指定された生徒の一部

ただし、次に掲げる生徒は調査対象者から除く

(ア) 全日制課程及び定時制課程に在籍する満18歳以上（平成15年4月1日現在の満年齢）の生徒

(イ) 通信制課程の生徒

(3) 幼稚園

調査実施校に指定された幼稚園の5歳児（平成15年4月1日現在の満年齢）の一部

5 学校種類別学校総数、生徒等総数、調査実施校数等

区分	学校総数	幼児・児童 生徒総数	調査実施校数	発育状態調査 対象者数	健康状態調査 対象学級数
幼稚園	520	66,563	35	1,423	70
小学校	788	290,074	60	5,754	360
中学校	378	152,716	40	4,680	240
高等学校	189	156,107	60	2,700	180

* 学校総数及び幼児・児童・生徒総数は、平成15年度学校基本調査結果報告書（文部科学省）のうちの福岡県分値

6 調査の期日

平成15年4月1日から6月30日までの間に実施された学校保健法による健康診断の結果に基づき調査

〔利用上の注意〕

(1) 本調査の調査客体数は全国集計で精度を満たす抽出数となっているため、県分の数値は精度面の問題点に留意のうえ活用されたい。

(2) 年齢は、平成15年4月1日現在の満年齢である。

(3) この結果数値は速報であるため、後日文部科学省から公表される確定数値と相違することがある。

※ 昨年度までは発育状態調査及び健康状態調査の双方の結果を掲載していたが、本年度は文部科学省から健康状態調査の都道府県別数値が提供されなかったため、発育状態調査の結果のみ掲載している。

調査結果の概要(要旨)

1 年齢別にみた平成15年度の体格の状況

- ① 体重は男女合わせて4つの年齢区分で過去(昭和24年度(座高は25年度)以降の記録が残る調査結果のうち)最高となったが、身長及び座高には最高となった区分は1つもなかった。
- ② 女子の10歳・11歳は、身長・体重・座高の全項目で男子を上回っている。
- ③ 年間発育量(注1)が最大となるのは、男子は身長・体重ともに12歳、女子は身長が9歳・10歳、体重は10歳となっている。

2 現世代と親の世代の体格の比較

- ① 平成15年度(現世代:注2)の身長・体重・座高を30年前の昭和48年度(親の世代:注2)と比較すると、17歳女子の座高(同数値)を除く全年齢区分で現世代の方が上回っている。
- 男子は14~16歳頃に、女子は13~15歳頃に現世代が親の世代の1歳上の数値を上回るようになり、併せて男女の体重は15歳で親の世代の16歳及び17歳を上回り、更に女子の身長は14歳で3歳上の17歳をも上回るようになっている。

3 体格の年度推移の状況

- ① 主な年齢(5歳・11歳・14歳・17歳:注3)の昭和34年度~平成15年度分(注4)身長及び体重の調査結果について、5年ごとの平均値により全体的に年度推移の傾向をみると、身長は昭和54~58年度の平均値を境にして、前半の年度の方が後半よりも伸びの傾斜が大きく、また、後半は11歳男女及び14歳男子を除く各区分で、徐々に横ばいに近い状態になってきている。
- 体重は5歳の男女を除く他の区分では、全体的にみて増加を続けているが、最近の2つの年度区分(平成6~10年度及び11~15年度)のみを比較すると、11歳男女及び14歳男子を除く各区分(身長の場合と同様)については、ほぼ横ばい状態となっている。
- ② 福岡県及び全国の17歳の身長・座高について、昭和34年度~平成15年度までの推移状況(5年ごとの平均値)をみると、身長は3.7cm~5.6cm増加しているが、そのうち、足の部分が伸びた割合が身長増加数値の63%~88%を占めており、足が伸びたことが身長増加の主な要因という結果になっている。

4 体格の違いの全国分布状況

- ① 17歳の身長・体重(平成11~15年度の平均値)の違いの、全国における分布状況をみると、身長は主として東北・北陸地方の日本海沿岸に全国平均を大きく上回る県等が集まっており、西日本には全国平均未満の県が多い。
- 体重も全国平均未満の県等は西日本に多く、また、全国平均を大きく上回る県等は北海道及び東北地方に集まっている。
- 福岡県の身長・体重は、西日本に位置する県の例に漏れず全国平均をやや下回っているが、身長に占める足の長さの割合(注5)については、男女とも全国平均以上となっている。
- ② 親の世代(昭和42~48(除45・46)年度)についても、17歳の身長・体重の分布状況をみたと、全国平均未満の県は現世代と同様に身長・体重ともに西日本に多くなっているが、全国平均を大きく上回る県等は地域的にまとまったものとはならず、現世代の状況とは異なる結果となっている。

《 注 釈 》

(注1) …年間発育量：一人の生徒の体格を毎年度継続して計測した場合、各年度の間に増加した身長・体重の数値を求めることができるが、年間発育量はこれの県(全国)の平均に相当する数値。具体例としては、表1の男子の「15年度・17歳：170.0cm」から「14年度・16歳：168.9cm」を差し引いた「1.1cm」が、60年度生まれの16歳時の年間発育量。

(注2) …平成15年度(又は15年度を含む5年間の平均)を現世代とし、30年前の昭和48年度(又は48年度を含む5年間の平均)を親の世代として調査結果を比較。

なお、年間発育量の場合は、平成15年度の17歳(昭和60年度生まれ)を現世代、昭和48年度の17歳(昭和30年度生まれ)を親の世代として調査結果を比較。

(注3) …幼稚園及び小・中・高等学校それぞれの最上級生にあたる「幼稚園…5歳、小学校6年生…11歳、中学校3年生…14歳、高等学校3年生…17歳」の、4つの年齢を主な年齢として使用。

(注4) …数値の精度を高めるため、年度推移をみる場合には昭和34～平成15年度(記録は24又は25年度以降分が現存しているが、5年区切りとしたため45年間分を使用)の調査結果について各5年ごとの平均値を使用。また、福岡県と全国平均等を比較する場合には、平成11～15年度の5年分の平均値を使用。

(注5) …「身長一座高」を“足の長さ”とし、「足の長さ÷身長」を“足の長さの割合”として算定

I 身長

① 8歳男子及び6歳女子は2年連続で増加、11歳男子及び17歳女子は2年連続で減少

福岡県における身長は表1のとおりで、平成15年度は、男女・年齢別にみて過去最高となった区分は1つもなかった。

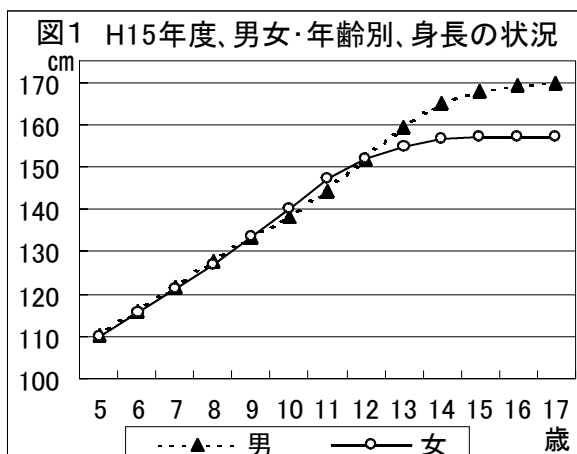
平成13～15年度の増減状況を見ると、8歳男子及び6歳女子は2年連続で増加し、11歳男子及び17歳女子は2年連続で減少している。また、5歳の女子については3年連続して同数値(109.8cm)となっている。

区分		幼稚園			小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳		
男子	H15	110.3	116.1	121.9	128.0	133.6	138.2	144.2	151.9	159.6	164.9	168.1	169.2	170.0		
	H14	110.7	116.7	122.5	127.8	133.2	138.8	144.5	151.7	158.7	165.2	167.7	168.9	170.5		
	H13	110.4	116.2	121.9	127.5	133.2	138.6	145.2	152.4	159.3	165.1	168.3	169.6	170.1		
	S48	109.6	114.4	120.7	126.2	130.7	135.7	141.2	147.4	154.8	161.2	165.5	167.6	168.2		
女子	H15	109.8	115.7	121.3	126.9	133.3	140.2	147.1	151.8	154.7	156.4	157.0	157.3	157.2		
	H14	109.8	115.5	122.3	127.3	133.6	140.0	145.9	152.0	155.1	156.2	157.0	157.1	157.3		
	H13	109.8	115.1	121.1	127.0	132.9	140.3	146.5	151.9	154.8	156.2	156.7	157.1	157.4		
	S48	108.7	113.7	119.6	124.9	130.9	136.8	143.5	149.1	153.0	154.5	155.4	155.8	155.6		

※ 太字部分は、昭和24年度以降の記録が残る調査結果うちの最高値

② 男女差(男子>女子)は、13歳以降に拡大

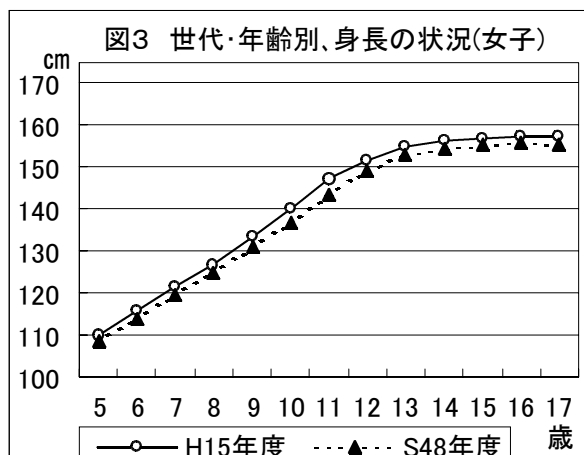
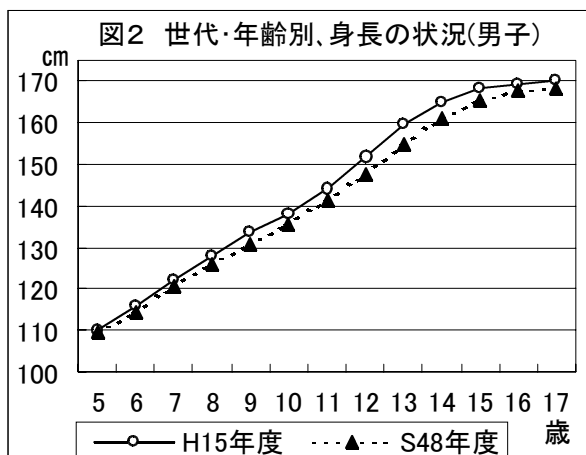
平成15年度の男女を比較すると、表1・図1のように10歳、11歳で女子の身長が男子をやや上回っているものの、他の年齢では男子の方が高くなっている。また、12歳まではほとんど男女差はないが、13歳以降は男子が女子を上回るようになり、差が最大となる17歳では男子の方が12.8cm高くなっている。



③ 男女とも全年齢区分で、現世代が親の世代以上

平成15年度(現世代)の男女・年齢区分別の身長を30年前(親の世代)の昭和48年度と比べると、表1・図2・図3のように、男女ともすべての年齢区分で現世代の方が上回っており、差が最大となるのは、男子は13歳の4.8cm、女子は11歳の3.6cmであった。

また、男子の現世代の12～14歳は、親の世代ではそれぞれ1歳上の13～15歳に近い身長であり、15歳以降ではそれぞれ親の世代の1歳上の身長よりも高くなっている。



女子では同様に11歳、12歳で親の世代の1歳上の身長に近づき、13歳で親の世代の14歳より高くなり、更に14歳では親の世代の3歳上の17歳をも上回る結果となっている。

④ 年間発育量、男子は12歳時の7.7cm、女子は9歳、10歳時の6.8cmが最大

現世代の17歳(昭和60年度生まれ)について年間発育量をみると、男子では図4のように11歳及び12歳時の発育が著しく、12歳時に最大の7.7cmとなっている。

女子では図5のように、年間発育量が最大となるのは9歳及び10歳時の6.8cmで、この時期は男子に比べ2歳早くなっている。

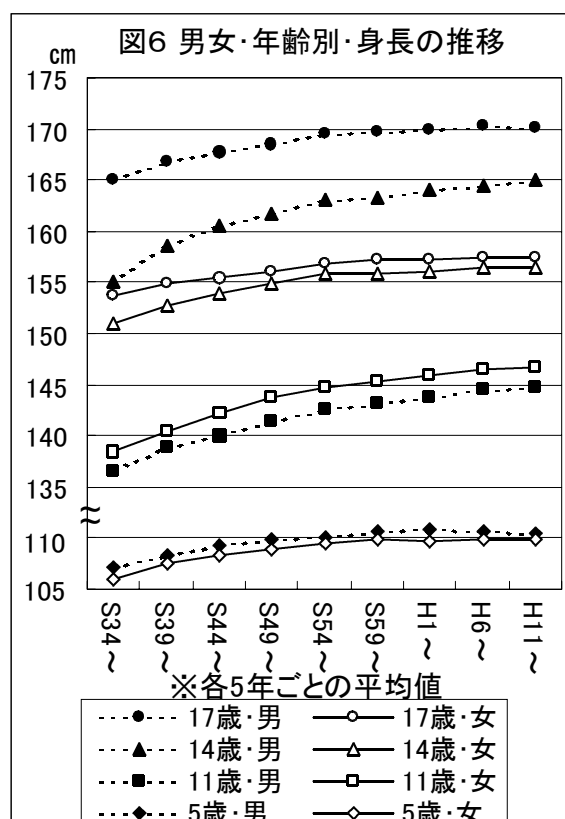
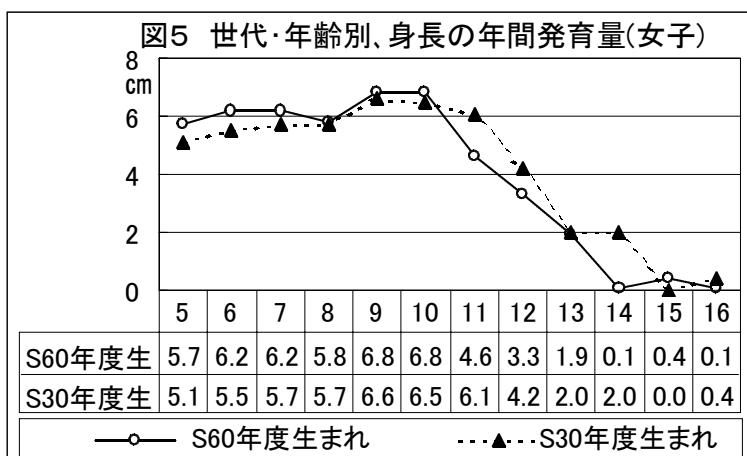
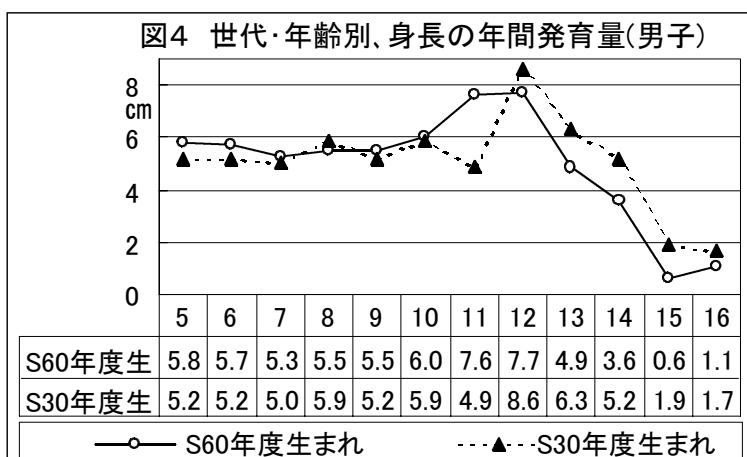
また、30年前の親の世代の17歳(昭和30年度生まれ)と比較すると、男子は年間発育量が最大となる時期や減少を始める時期が、現世代と同年齢になっている。

女子では年間発育量の減少幅が大きくなり始める時期は、現世代の方が親の世代より1歳早くなっている。

⑤ 身長の年度推移、男女・年齢別の過半数の区分で、伸びは徐々に横ばい傾向

身長の年度推移について、男女別及び主な年齢(5歳・11歳・14歳・17歳)別にみるため、過去(昭和34~平成15年度)の身長の調査結果を5年ごとの平均値により比較したところ、結果は図6(統計表17頁参照)のとおりであった。

全体の傾向をみると、男女・年齢別の全区分において、昭和54~58年度の平均値を境にして、前半の方が後半よりも伸びの傾斜が大きくなっている。また、後半の年度では、11歳男女及び14歳男子を除く各区分において、徐々に横ばいに近い状態になってきている。



Ⅱ 体重

① 男子の13歳及び15歳、女子の9歳及び11歳で過去最高値

福岡県における体重は表2のとおりで、平成15年度は、男子の13歳及び15歳並びに女子の9歳及び11歳の、併せて4つの年齢区分で過去最高となった。

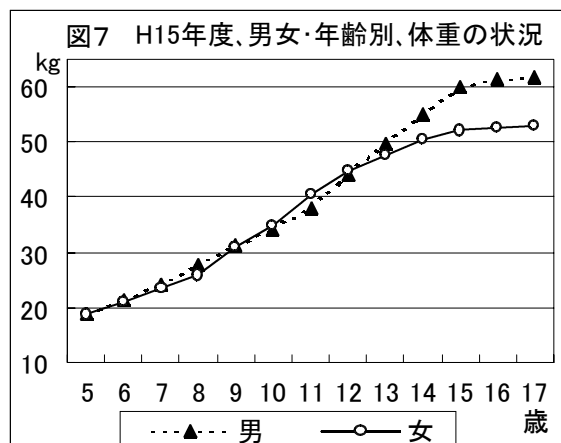
また、平成13～15年度の増減状況をみると、2年連続増加は身長の場合より多い5区分（男子の8歳、14歳、15歳、女子の6歳、9歳）、2年連続減少は1区分（女子の8歳）となっている。

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	H15	19.0	21.5	24.2	27.8	31.2	34.3	38.2	43.9	49.9	54.9	60.2	61.5	61.9
	H14	19.0	21.7	24.4	27.5	30.6	34.2	38.8	43.6	49.0	54.7	59.4	61.6	63.1
	H13	19.1	21.4	23.9	26.9	31.1	34.6	38.8	45.1	49.1	54.5	59.3	61.5	61.1
	S48	18.6	20.1	22.7	25.2	27.7	30.9	34.4	39.4	44.3	50.0	54.6	56.7	58.2
女子	H15	18.8	21.1	23.6	26.1	30.8	34.8	40.6	44.6	47.7	50.3	52.2	52.6	53.1
	H14	18.7	21.0	24.4	26.4	30.5	34.1	39.1	44.5	47.7	50.0	52.4	52.6	52.2
	H13	18.7	20.8	23.3	26.6	30.2	35.3	39.2	44.7	47.5	50.4	51.9	53.3	52.9
	S48	18.2	19.7	22.2	24.7	27.9	31.5	36.2	41.1	45.1	48.3	50.4	51.2	51.7

※ 太字部分は、昭和24年度以降の記録が残る調査結果うちの最高値

② 身長と同様に、男女差(男子>女子)の拡大は13歳以降

男女を比較すると表2・図7のように、10～12歳で女子の体重が男子をやや上回っているが、他の年齢では男子の方が重くなっている。また、身長の場合と同様に12歳まではほとんど男女差はないが、13歳以降は男子が女子を上回るようになり、差が最大となる16歳では男子の方が8.9kg重くなっている。



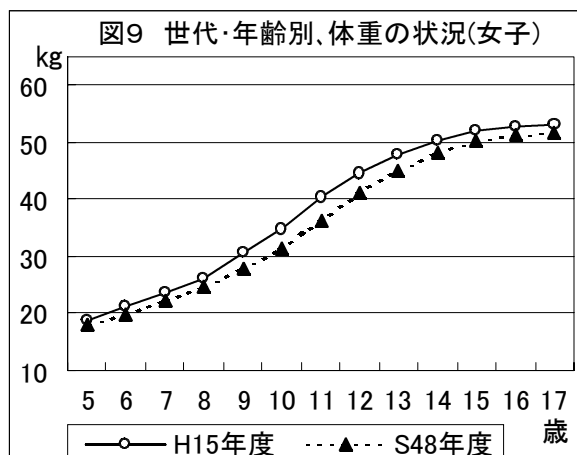
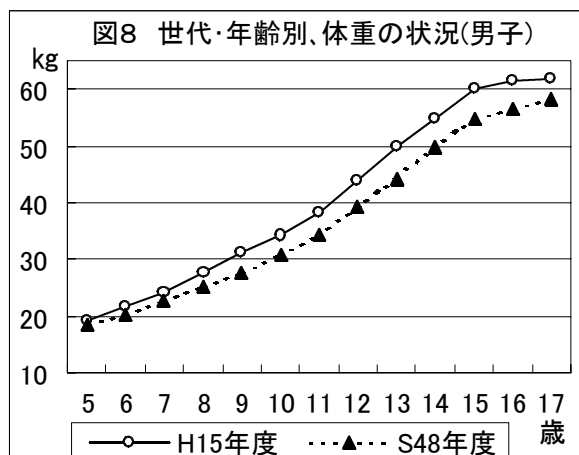
③ 男女とも全年齢区分で、現世代が親の世代以上

平成15年度（現世代）の男女・年齢区分別の体重を、30年前（親の世代）の昭和48年度と比べると、身長の場合と同様に、男女ともすべての年齢区分で現世代の方が上回っている。

男子で最も差のある年齢は、表2・図8のように13歳及び15歳で、親の世代の同年齢より5.6kg重くなっている。また、8歳、9歳及び14歳以上の各年齢で、親の世代の1歳上の体重を上回っている。

女子では表2・図9のように、最も差のある年齢は11歳で4.4kgの差があり、15年度の11歳の体重は、親の世代では12歳に近い数値となっている。

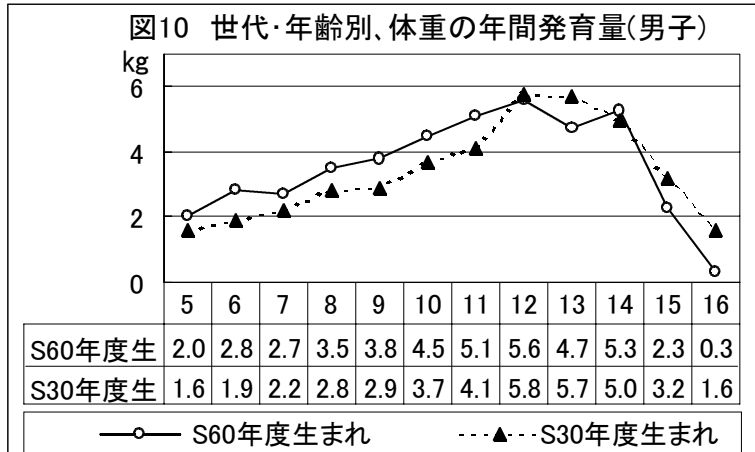
なお、男女とも現世代の15歳は、親の世代の16歳及び17歳よりも重くなっている。



④ 年間発育量の最大値は、男子が12歳時の5.6kg、女子は10歳時の4.9kg

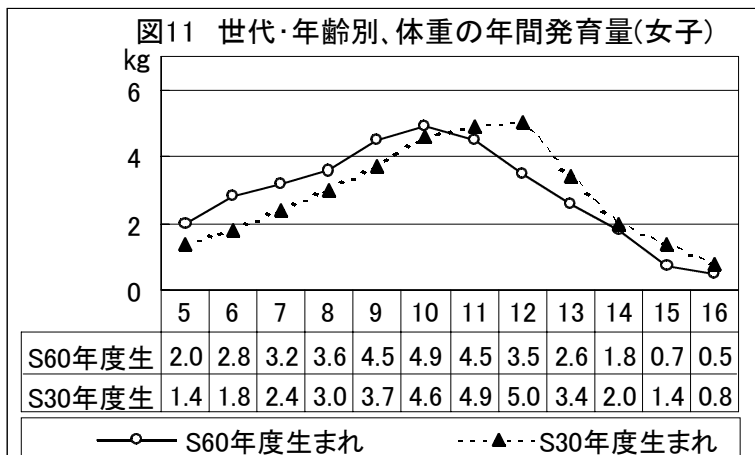
現世代の17歳(昭和60年度生まれ)について年間発育量をみると、男子では図10のように11歳、12歳、14歳時の発育が著しく、12歳時(身長の場合と同様)に最大の5.6kgとなっている。

女子では図11のように、年間発育量が最大となるのは10歳時の4.9kgであるが、9~11歳時の発育が著しく、この時期は男子に比べ2~3歳早くなっている。



また、年間発育量を30年前の親の世代の17歳(昭和30年度生まれ)と比較すると、男子は親の世代と同じ12歳時が最大で、11歳以下のすべての年齢時において親の世代を上回っている。

女子で発育が著しいのは、親の世代では10~12歳時となっているが、現世代では9~11歳時であり、その時期は親の世代より1歳早くなっている。

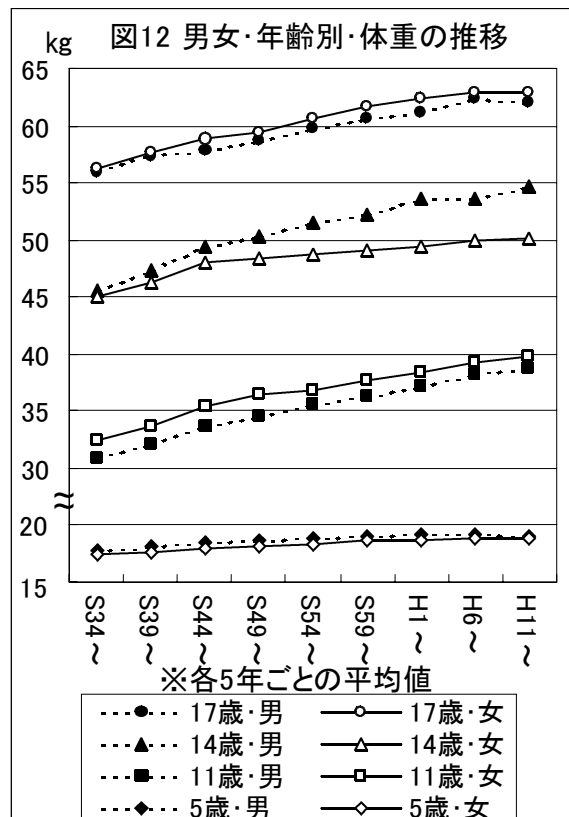


⑤ 体重の年度推移、全体的には継続して増加

過去(昭和34年度~平成15年度)の体重の調査結果を5年ごとの平均値により、男女別及び主な年齢(5歳・11歳・14歳・17歳)別に比較したところ、結果は図12(統計表17頁参照)のとおりであった。

全体的な傾向をみると、身長の場合(I-⑤(図6))は、後半の年度になると半数以上の区分でやや伸び止まり傾向がみられたが、体重では5歳の男女が横ばい傾向であるのを除き、他の区分では全体を通して増加を続けている。

ただし、最近の2つの年度区分(平成6~10年度及び11~15年度)のみを比較すると、11歳男女及び14歳男子を除く各区分(身長と同様の区分)については、ほぼ横ばい状態となっている。



Ⅲ 座高

① 8歳男子は2年連続で増加、10歳及び11歳男子は2年連続で減少

福岡県における座高は表3のとおりで、平成15年度は、身長と同様に男女・年齢別にみて過去最高となった区分は1つもなかった。

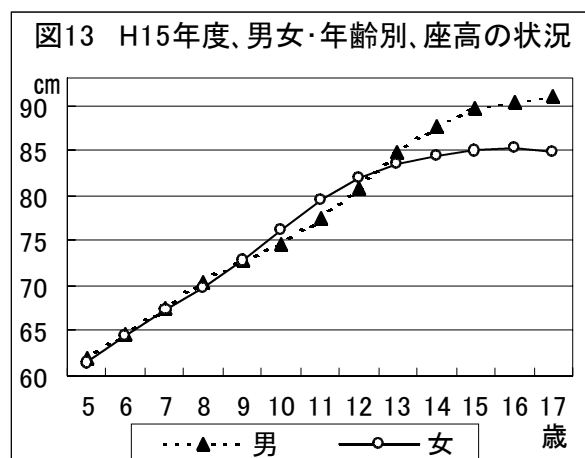
また、平成13～15年度の増減状況をみると、2年連続増加は8歳男子の1区分のみ、同減少は男子の10歳及び11歳の2区分となっている。

区分		幼稚園			小学校				中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	H15	61.9	64.7	67.5	70.5	72.9	74.7	77.4	80.9	84.8	87.6	89.6	90.4	90.9
	H14	62.1	65.0	67.8	70.3	72.7	75.0	77.7	80.9	84.4	88.1	89.5	90.3	91.2
	H13	61.7	64.8	67.6	70.2	72.7	75.1	78.1	81.4	84.6	87.7	90.1	90.5	91.0
	S48	61.8	64.2	67.0	69.3	71.5	73.6	75.7	79.1	82.6	86.0	88.5	89.7	89.9
女子	H15	61.5	64.5	67.3	69.7	72.8	76.1	79.6	82.0	83.5	84.4	85.0	85.2	84.9
	H14	61.6	64.5	67.8	70.1	73.0	76.0	79.1	82.0	83.6	84.4	85.2	85.3	85.2
	H13	61.4	64.3	67.2	69.9	72.6	76.2	79.5	82.0	83.4	84.4	85.0	85.1	84.9
	S48	61.4	63.6	66.3	68.7	71.5	74.4	77.6	81.1	83.1	84.1	84.5	84.9	84.9

※ 太字部分は、昭和25年度以降の記録が残る調査結果うちの最高値

② 男女差(男子>女子)は、14歳以降に拡大

平成15年度の男女を比較すると、身長の場合とよく似た状況を示しており、表3・図13のように10～12歳では女子の座高が男子をやや上回っているが、他の年齢では男子の方が高くなっている。また、13歳まではほとんど男女差はないが、14歳以降は男子が女子を大きく上回るようになり、差が最大となる17歳では男子の方が6.0cm高くなっている。

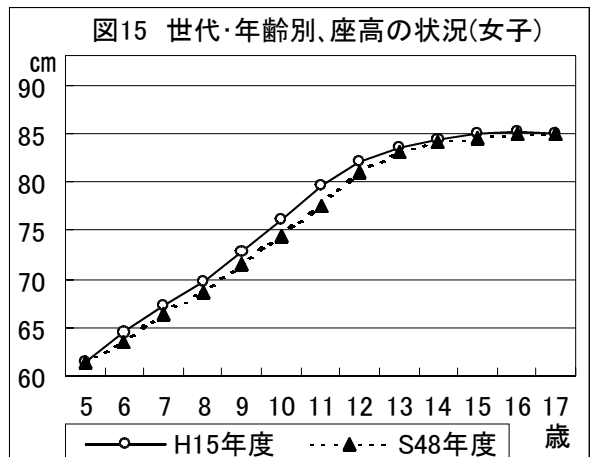
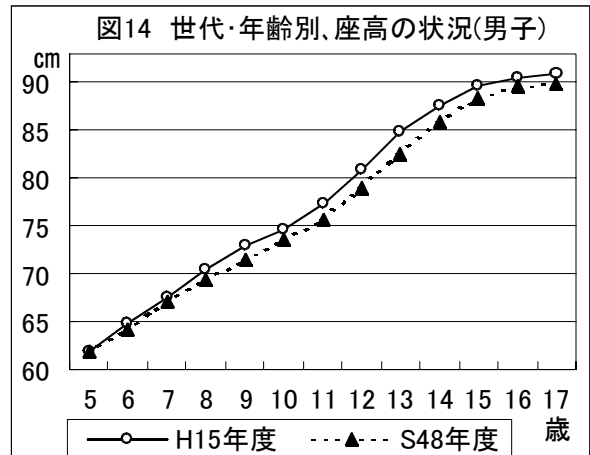


③ 男女とも全年齢区分で、現世代が親の世代以上

平成15年度(現世代)の男女・年齢区別の座高を30年前(親の世代)の昭和48年度と比べると、表3・図14・図15のように、男女ともすべての年齢区分で現世代は親の世代以上(17歳女子は同数値)であり、差が最大となるのは、男子は13歳で、親の世代より2.2cm高くなっており、女子は11歳で、親の世代より2.0cm高くなっている。

また、男子の現世代の9歳、14歳、15歳は、親の世代ではそれぞれ10歳、15歳、16歳に近い座高であり、16歳では親の世代の17歳よりも高くなっている。

女子の13歳以降では現世代と親の世代の差が少なくなり、併せて14歳以降ではどちらの世代も伸びが鈍化している。



Ⅳ 身長・体重・座高の相互の関係等

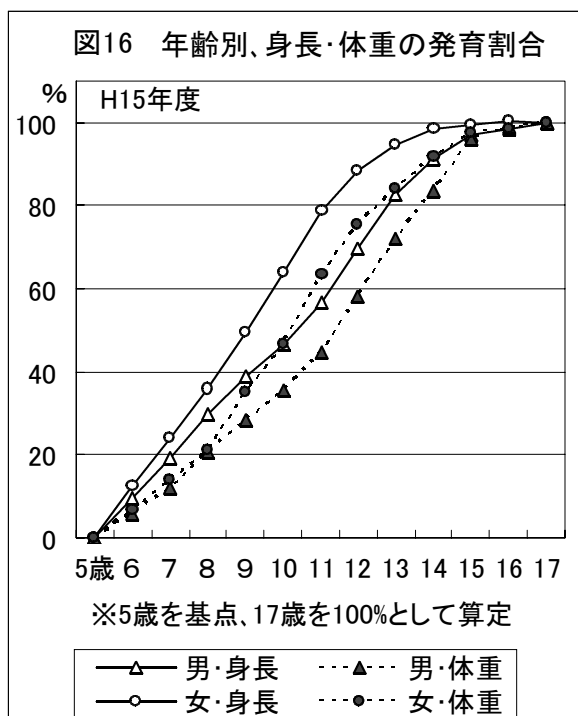
これまで身長・体重・座高の計測値の調査結果を、それぞれにみてきたが、相互の関係等を調べるため、身長と体重及び身長と座高の関係について、比率や指数により比較したところ、結果は以下のとおりであった。

《身長と体重の相互の関係》

① 身長は、体重より1～2歳分早く発育

I-②(図1)及びII-②(図7)により、平成15年度の身長・体重について男女・年齢区別に発育状況を見ると、発育の曲線は各項目で異なっている。

この曲線の違いについて、身長及び体重が17歳の体格(成人に近い体格)に近づいていく状況を、5歳時点を基点とし、17歳時点を100とした比率で年齢別に比較したところ、結果は表4・図16のとおりであった。



身長と体重の発育割合の推移を比較すると、男女ともに身長の方が先に大きくなり、1歳～2歳分遅れて体重が身長に追いついていくような曲線になっている。

また、男女の発育割合の推移を比較すると、身長は1～2歳、体重は約1歳、女子の方が男子より早く大きくなっているが、16歳時点では、男女の身長・体重ともに、17歳の体格とほぼ同じになっている。

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
身長の発育割合	男子	0.0	9.7	19.4	29.6	39.0	46.7	56.8	69.7	82.6	91.5	96.9	98.7	100.0
	女子	0.0	12.4	24.2	36.0	49.5	64.1	78.7	88.6	94.7	98.3	99.6	100.2	100.0
体重の発育割合	男子	0.0	5.8	12.1	20.5	28.4	35.6	44.7	58.0	72.0	83.7	96.1	99.1	100.0
	女子	0.0	6.7	14.0	21.3	35.0	46.7	63.6	75.3	84.3	91.9	97.4	98.6	100.0

※5歳時点を基点とし、17歳時点を100として算定した比率

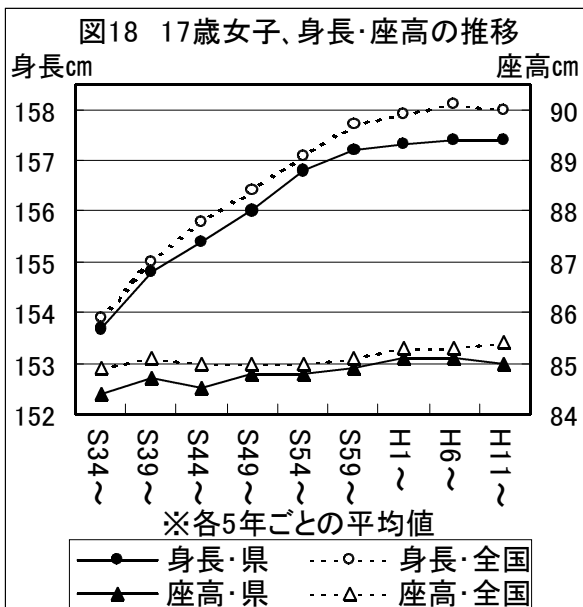
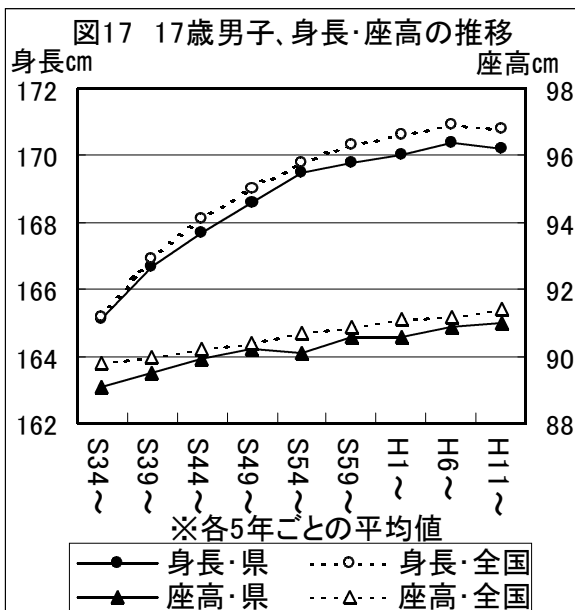
《身長と座高の相互の関係》

② 足が伸びたことが身長増加の主な要因（年度推移比較）

17歳の身長・座高の福岡県及び全国平均の状況について、男女それぞれに年度推移を見るため、過去の調査結果を5年ごとの平均値により比較したところ、結果は表5・図17・図18のとおりであった。

男女・福岡県・全国平均の各項目別に昭和34年度～平成15年度までの変化をみると、身長が3.7～5.6cm増加したのに比べ、座高は0.5～1.9cmの増加に止まっている。このことから、その差（各項目ごとの身長の増加数値－座高の増加数値）である3.1～4.0cmについては、足の部分が伸びたことになるが、その割合は身長の増加数値の62.7～87.8%を占めており、いずれの場合も、足が伸びたことが身長増加の主な要因という結果になっている。

また、福岡県と全国平均を比較すると、身長・座高とも、昭和34年度以降のすべての年度（各5年平均）及び男女別区分において、福岡県の方がわずかに全国平均を下回っており、平成11～15年度平均値での差は、男女とも身長は0.6cm、座高は0.4cmとなっている。



区分		S34 ～38	S39 ～43	S44 ～48	S49 ～53	S54 ～58	S59 ～63	H1 ～5	H6 ～10	H11 ～15	
身長 (a)	男子	福岡県	165.1	166.7	167.7	168.6	169.5	169.8	170.0	170.4	170.2
		全国平均	165.2	166.9	168.1	169.0	169.8	170.3	170.6	170.9	170.8
	女子	福岡県	153.7	154.8	155.4	156.0	156.8	157.2	157.3	157.4	157.4
		全国平均	153.9	155.0	155.8	156.4	157.1	157.7	157.9	158.1	158.0
座高 (b)	男子	福岡県	89.1	89.5	89.9	90.2	90.1	90.6	90.6	90.9	91.0
		全国平均	89.8	90.0	90.2	90.4	90.7	90.9	91.1	91.2	91.4
	女子	福岡県	84.4	84.7	84.5	84.8	84.8	84.9	85.1	85.1	85.0
		全国平均	84.9	85.1	85.0	85.0	85.0	85.1	85.3	85.3	85.4
(a-b)	男子	福岡県	76.0	77.2	77.8	78.4	79.4	79.2	79.4	79.5	79.2
		全国平均	75.4	76.9	77.9	78.6	79.1	79.4	79.5	79.7	79.4
	女子	福岡県	69.3	70.1	70.9	71.2	72.0	72.3	72.2	72.3	72.4
		全国平均	69.0	69.9	70.8	71.4	72.1	72.6	72.6	72.8	72.6

③ 「足の長さの割合」は、男女とも全国平均以上

②で「足が伸びたことが身長増加の主な要因」という内容を示す数値が出たため、17歳男女の「身長に占める足の長さの割合」について、福岡県・全国平均別に過去(昭和34年度～平成15年度)の調査結果の年度推移状況を、5年ごとの平均値により比較した。

結果は表6・図19のとおりで、男子は昭和34～58年度位まで、女子は昭和34～63年度位までは上昇している。その後は横ばいか又は多少減少しているが、福岡県の現世代(平成11～15年度)と親の世代(昭和44～48年度)を比較すると、男子は0.14ポイント、女子は0.38ポイント現世代の方が上回っている。

なお、福岡県の現世代の数値は、身長・体重・座高ともにわずかに全国平均を下回っているが、身長に占める足の長さの割合については、男女とも全国平均を上回る(男子0.04ポイント、女子0.05ポイント)結果となっている。

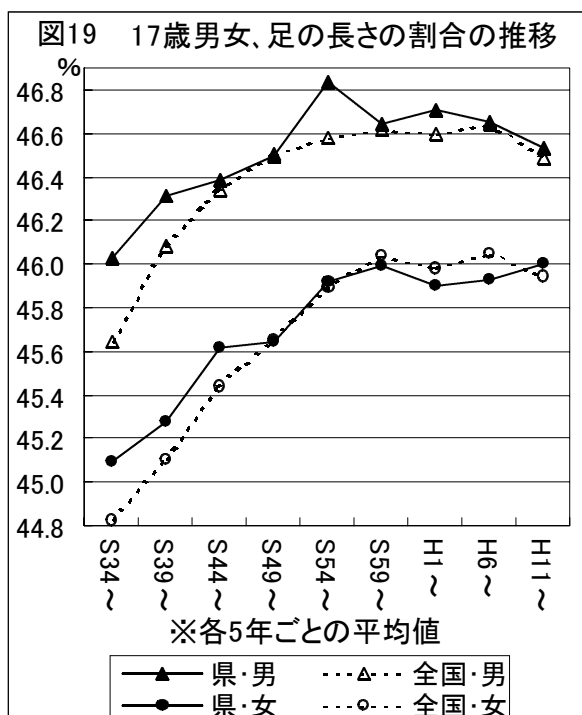


表6 17歳、「身長に占める足の長さの割合」の推移(県・全国別、各5年平均) (単位: %)

区分	S34 ~38	S39 ~43	S44 ~48	S49 ~53	S54 ~58	S59 ~63	H1 ~5	H6 ~10	H11 ~15
男									
福岡県	46.03	46.31	46.39	46.50	46.84	46.64	46.71	46.65	46.53
全国平均	45.64	46.08	46.34	46.51	46.58	46.62	46.60	46.64	46.49
女									
福岡県	45.09	45.28	45.62	45.64	45.92	45.99	45.90	45.93	46.00
全国平均	44.83	45.10	45.44	45.65	45.89	46.04	45.98	46.05	45.95

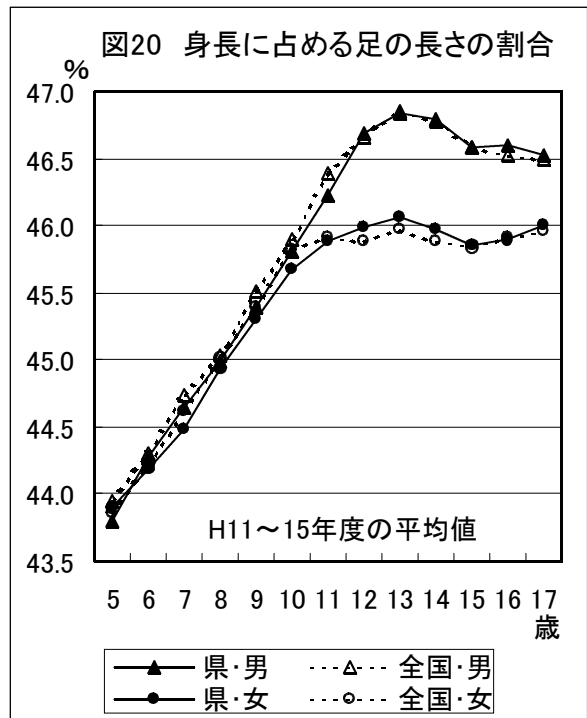
※「身長-座高」を“足の長さ”とし、「足の長さ÷身長」を“身長に占める足の長さの割合”として算定

④ 「足の長さの割合」、最大となるのは男女とも13歳

「身長に占める足の長さの割合」の平成11～15年度平均について、福岡県と全国平均の数値を男女別に比較したところ、表7・図20のとおりであった。

男女を比較すると、男子は12歳、女子は10歳位までは急激に増加するが、その後は、男女とも13歳をピークとした横ばい及びやや減少傾向の緩やかな曲線となっている。また、男女差は10歳まではほとんどないが、福岡県で差が最大となる14歳では男子が女子を0.82ポイント上回っている。

14歳以降は、男子の全国平均は徐々に減少、福岡県は16歳でいったん増加するもののそれ以外の区分では徐々に減少し、いずれも17歳まで減少し続けている。一方、女子は福岡県及び全国平均ともに15歳でいったん減少するが、その後は増加し、17歳では13歳に次ぐ高率となっている。



また、福岡県と全国平均を比較すると、11歳までは5歳女子以外の全区分で全国平均の方が上回っているが、12歳以降では、福岡県の方が上回る区分（12区分中9区分）が多くなっている。

表7 年齢別「身長に占める足の長さの割合」（県・全国別、H11～15の平均） （単位：%）

区分	幼稚園		小学校					中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	福岡県	43.80	44.28	44.64	44.99	45.39	45.81	46.23	46.68	46.83	46.79	46.58	46.60	46.53
	全国平均	43.95	44.30	44.73	45.04	45.51	45.90	46.39	46.66	46.85	46.77	46.59	46.53	46.49
女子	福岡県	43.90	44.19	44.48	44.93	45.30	45.68	45.88	45.98	46.06	45.97	45.85	45.90	46.00
	全国平均	43.86	44.21	44.62	45.02	45.39	45.83	45.92	45.89	45.97	45.88	45.84	45.91	45.95

※「身長－座高」を「足の長さ」とし、「足の長さ÷身長」を「身長に占める足の長さの割合」として算定

……（その2）に続く……